



みやたん かわらばん

2026 年 3 月発行
No. 23 号
拡大版

TOPIC

令和 7 年度宮古短期大学部学位記授与式 前途洋洋～希望の未来へ突き進め～

令和 7 年度宮古短期大学部の学位記授与式が、3 月 13 日に本学体育館で行われ、67 名の卒業生が学び舎を後にしました。式典では、学位記授与(総代：相原胡春さん)のあと、鈴木学長が式辞を述べ、八重樫岩手県副知事、城内岩手県議会議長、中村宮古市長、摂待同窓会長からそれぞれ祝辞を頂きました。卒業生を代表して、川野一夏さんが「本当に自分がやりたいことは何なのかを考えることができ、自ら学ぶ姿勢を持つことの大切さを、身を持って感じました。今日までの自分に誇りを持ち、自信と常に挑戦し続ける志を持って、自らの道を歩んでいきます」と挨拶しました。卒業生たちは、保護者や教職員、地域の方々に見守られながら仲間との思い出を胸にそれぞれの新たな一歩を踏み出しました。



卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます！

後輩の
皆さんへ

宮短での 2 年間一生懸命勉強しました。色々な方の支えがあったからこそ、今の私があります。後輩のみなさん！何があっても「あきらめないこと！」夢に向かって前に進んでください！(相)



(左)学長賞：相原胡春さん(右)総代：川野一夏さん

編入学を目標に宮短に入学しました。特に半年間は、必死に勉強して夢だった編入学を叶えることができました。後輩のみなさん！周りを頼り、助け合いながら学生生活を送ってください。(川)

教員コラム

宮古短期大学部 准教授 松本 安司

会計科目担当の松本と申します。以前、コンビニでアルバイトをしている学生からクリスマスケーキを買ってくれと言われました。「金額がいい？個数がいい？」と聞くと、個数がいいというので安いデザートを多く買うことにしました。彼女には個数で目標が設定されていたわけですが、企業では上位になるほど大きな目標と責任が課せられます。たとえば店長は店の利益、東北支社長は東北地域、社長はすべてです。それぞれの責任に応じた目標を数値で設定し測定するのが会計の役割の一つです。会計学の理解には経営学など他の科目の理解も必要です。宮古短大で様々な科目を通じて会社の活動や経済の仕組みを学んで、社会人になってそれを生かしてください。

「宮古短期大学部の教員紹介」はこちら →



図書館
ホームページ

図書館だより

図書館がより利用しやすくなります！ 土曜日開館(試行的)

図書館では、たくさんの方が利用しやすくなるように、R7 年度から行ってきた隔週土曜日開館を拡大し、R 8 年 4 月から基本的に毎週土曜日を試行的に開館します。平日、なかなか利用できない方も、ぜひ一度お越しください。見学のみでも大歓迎です。学校行事等で開館日が変更になる場合もありますので、最新の情報は、図書館ホームページや SNS(X・Instagram)でご確認をお願いします。

4 月開館カレンダー						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

通常 9 時～18 時

短縮 9 時～17 時

休 館



お問合先
宮古短期大学部図書館
☎ 0193-64-2230
✉ myk-library@ml.iwate-pu.ac.jp

宮古市津波避難・災害対応訓練に参加しました！

3 月 11 日に宮古市津波避難訓練および災害対応訓練が実施されました。災害対応訓練は、宮古市立河南中学校を主会場として行われ、本学の学生と教職員も参加しました。訓練では、実際にテントやベッドを組み立てる避難所の開設のほか、給水車、トイレカー、ドローン等の展示、防災ヘリコプターによる上空偵察訓練、赤外線ドローン訓練等も行なわれ、普段見ることができない訓練を体験することができました。震災を知らない世代が増えていくなか、次の世代へ記憶と行動を受け継ぐ大切な一日となりました。



地域情報

『無印良品 宮古』

宮古市磯鶏 1 丁目 6-23
☎ 0193-65-6860
営業時間 10:00～20:00



岩手県沿岸エリア初出店となる「無印良品 宮古」が、2025 年 11 月宮古市磯鶏にオープンしました。県内で 5 店目となった「無印良品 宮古」は、大型店で、衣服、生活雑貨、食品といった日常を支える商品が数多く取り揃えられています。広い店内には、本格的な味わいが堪能できるセルフ式のコーヒーマシンが設置されており、お手頃な価格のコーヒーで休憩しながらゆっくりとお買い物することができます。また、宮古短大からも近く、お散歩がてら気軽に行けるお店です。これから新生活をスタートするみなさんには、欠かせない商品がたくさんあります。ホームページには、幅広いジャンルの中から宮古店のスタッフがおすすめする商品を店舗ブログにて紹介していますので、お買い物の参考にしてください。



レジ付近には、地域の情報がたくさん集められた掲示板も設置されていますので、ぜひこちらもご覧ください！

「無印良品 宮古」の
ホームページ



4 月の予定

■ 4/2(木)～3(金)
汐風寮入寮期間
■ 4/9(木)
前期授業開始

■ 4/3(金)
宮古短期大学部入学式
■ 4/18(土)
宮古短期大学部開学記念日

特集 三陸学の世界へようこそ！～「学びを地域に、地域を学びに」～

三陸をまるごと学ぶ！オンリーワンの学び 震災復興の地で学ぶ、持続可能な地域づくり



世界有数の漁場、三陸復興国立公園、みちのく潮風トレイル、三陸ジオパーク、そして東日本大震災津波からの復興の地。宮古短大がある三陸は、学びの魅力にあふれています。

2025 年度から始まった「三陸創造科目」は、この三陸の地で、地域社会と深く連携しながら、地理・自然・文化・復興・防災を相互に関連づけて学び、持続可能な地域づくりを考える宮古短大ならではの科目です。

地域と向き合い、地域とともに未来を考える学びが、ここにあります。あなたも宮古短大で、一緒に地域の未来をつくる学びに参加してみませんか。

学生目線で考える「総合三陸学」 受講生インタビュー



■「総合三陸学」を受講したきっかけは？

総合三陸学では、三陸に関する観光名所や東日本大震災に関する講義を行います。私は、宮古に来てから三陸には、海産物や、沿岸の景観美があると自分自身で体感してきました。一方、東日本大震災の被害を受けた過去やそこからの復興を遂げる過程の地域でもあります。ですので、本講義を受講することで、更に三陸の魅力を知れたらと思い履修に至りました。

■この科目を通して進学や就職活動で役に立ったことは？

本講義で三陸の各所を訪れたり、講義の説明を受け、自分自身で考える力がつくというところが就職活動に役立ったと感じます。私の就職先では、沿岸部に関する取り組みもしていたため、総合三陸講座で学んだことを、自分が働いてからどのように関わっていききたいのかという考えと沿いながら答えることが出来ました。

■一番印象に残っている授業は？

私は、陸前高田で訪れた「東日本大震災津波伝承館」が最も印象に残っています。本施設を訪れる以前は、津波による被害や影響を詳しく知らず、大まかな印象で津波は危険と認識していました。しかし、実際に訪れ、津波による遺構や被災者の方の声を聞き、津波による被害がどれほど甚大な被害を被ったのか、これから絶対に風化してはいけないものとして考えるきっかけとなりました。また、本講義で訪れた陸前高田市立博物館では、震災に関する講義ではなかったですが、陸前高田市も震災の被害を被っており、震災時に博物館に展示されているクジラの模型が崩れかけたという説明からより甚大なものであったと感じました。

■これから「総合三陸学」を履修しようと思っているみなさんへ

本講義では、三陸の歴史や魅力を学ぶことができ、フィールドワークとして三陸の各所を訪れることが出来ます。また、自分自身で足を運んで、三陸について知ることのできる唯一の講義ですので、是非履修してみてください！とても楽しく三陸について学べますよ！

学んだ知識で地域を動かす 旅行商品づくりに挑戦！プロジェクトレポート

三陸学の学びを地域の活性化や魅力の発信につなげようと、宮短生の有志が三陸鉄道を活用した旅行商品づくりのプロジェクトを立ち上げました！

2月25日、宮古短大のOGの千代川らんさんがガイドを務める三鉄の「震災学習列車」を体験。先輩に学びながら「自分たちならどう伝えるか？」「どうしたら三陸の魅力を伝えられるか？」を話し合いました。



このプログラムでは、令和8年8月1日、旅行商品づくりに向けて高校生などの生徒を対象にしたモニターツアーを予定しています。宮古短大での学びや挑戦する短大生のリアルな姿に触れる貴重な機会です。探究学習が好きな生徒、進路を考えたい生徒の皆さんの参加をお待ちしています！

先生方はぜひ生徒さんにお勧めください！
(詳細は、順次 WEB サイトで公開します)



高校生・高校の先生方へ



総合三陸学ノート

各回の授業をメモで振り返り
過去の「三陸学ノート」は、ホームページをご覧ください！



第7回「被災企業の復興」 (千葉洋平先生／本学講師)

東日本大震災で被害を受けた企業の復興について学びました。建物や設備の損害にとどまらず、売上減少や雇用への影響など多様な被害の実態を知り、企業が重ねてきた工夫や努力を理解しました。BCPの重要性にも触れ、復興とは単に元に戻すことではなく「被災前より良くする」挑戦であり、企業同士の連携がその大きな力になることを学びました。



第8回「三陸の震災文化と震災伝承」 (坂口奈央先生／岩手大学地域防災研究センター准教授)

能登地震や東日本大震災を通して、災害が地域の生活や人びとの心と与える影響を学び、被災地の伝統や復興活動、震災遺構や追悼行事から、生と死に向き合う災害文化を考えました。災害直後は押し流される「直線的時間」を感じやすいですが、一回きりでない「回帰的時間」として捉えることで、自然とともに生きる意識や、過去と未来をつなぐ力が育まれることを学びました。

第9回「三陸の観光地域づくり」 (河東英宜先生／株式会社かまいし DMC 代表取締役)

釜石市の震災後の地域活性化を通じて、地域の暮らしや伝統、自然をそのまま観光資源として活かす方法を学びました。地元のひとと訪問者が交流しながら豊かな体験を作るラーニングワークションの取り組みや、釜石市が世界的にも評価されている持続可能な観光地づくりの考え方も理解。単なる観光客誘致ではなく、地域の誇りや経済力を高める観光の意義を知りました。

第10回「三陸の地域資源を生かした復興まちづくり」 (相澤久美先生／認定NPO法人みちのくトレイルクラブ事務局長・常務理事)

みちのく潮風トレイルの歩みをたどり、震災復興とともに生まれ育った新たな地域づくりの挑戦を学び、ロングトレイルが地域づくりや観光の形を生み出す可能性を秘めていることを知りました。三陸の豊かな自然や文化を守りながら、人びとが交流し協力して「わたしたちのみちのく潮風トレイル」を育てることの大切さを学び、三陸の地域の可能性を実感する学びとなりました。

2026年度ももっとおもしろく！

一般公開拡大
さらに地域とつながる「三陸学」



詳細はこちら↑



三陸創造科目は、これまで2年次の「総合三陸学」のみを一般公開していましたが、2026年度は1年次の「岩手三陸学」も一般公開します！これにより、地域の第一線で活躍する実務家・研究者らによるスペシャル講義が10回から20回に倍増します。地域の皆様の聴講をお待ちしております。

